

ハンバーガーとピザ。そしてラーメン

文 伊藤公一
text by Kouichi Ito

優勝候補のロサンゼルス・ドジャースに入団を果たした大谷翔平選手。当初は、移籍に伴う天文学的な報酬額に話題が集中したが、その好条件を斜めに語る寸評が出ないのは、彼の爽やかな人柄からと真の実力者に優しいアメリカの懐の深さと察する。

だからこそさまざまな挑戦者が合衆国を目指すのである。

そして投打二刀流選手だけに、その一挙手一投足に注目が集まり、どうでもいい取材内容が報道番組を席巻する。対して大谷選手は慎重である。渡米してから期間を考えれば、語学力も相当に進歩しているはずだが、細かなニュアンス伝達の行き違いを恐れてか、専属通訳の役割を重視している。

その中、インタビュアーから「ハンバーガーとピザのどちらが好きか」と尋ねられた際には「バーガー」と即座に英語で対応していた。アメリカの人氣料理三傑が「ハンバーガー、ピザ、ホットドック」と知れば当然の質問であろうが、害のない設問だ。

アメリカ料理を考える。以前、トランプ前大統領が来日し、安倍晋三元総理大臣が松山英樹選手を伴い接待ゴルフに興じた際に、日本政府が万難を排して用意した昼食は名人が作ったハンバーガーであった。

そこで料理の発祥国について言及する。ハンバーガーのライバルであるピザがイタリア料理であることは当然だが、世界中に店舗を拡げ、ビッグマック指数と呼ばれる経済指数を形成したマクドナルドをはじめ、アメリカといえばハンバーガー。しかしながら、そのハンバーガーはドイツからの輸入品であり、ロシア発祥という説すらある。

コロナ禍が収束し、我が国にも本格的なインバウンド・ツーリズムが再開したが、訪日観光客に圧倒的に人気がある食事は寿司でも天ぷらでもなく、ラーメンだと聞く。

近年、ヨーロッパでもラーメン店の開業ラッシュが続き、伝統的なパリのカフェでもフランス料理以外に初めて解禁されたハンバーガーに続くのはラーメンといわれている。しかしながら、日本の頑固おやじ職人が作るラーメンも元は中華料理である。

日本人は日本での修行を積んでないアジア人が営む海外の寿司屋を「インチキな寿司屋」と軽蔑する風潮がある。とは言え、日本に点在するカレー屋をインドで、スパゲッティハウスをイタリアで、町中華を中国でと、開業前に発祥国に留学して修行を積んだ料理人は、そうはいないはずだ。焼肉屋を営

む韓国人も在日2世や3世であり、本場での修練は積んでいない。そう考えると、海外のフードモールを一カ所で提供する日本の居酒屋は実に偉大だ。

内外各地に自慢のご当地料理が存在するわけだが、人の往来、SNSの発展などにより、スポーツ同様、料理もますますポータブルになってきたのである。ちなみに小生は、「ラーメン大好き小池さん」である。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所（名古屋分院）<http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> ざっぽろ甲状腺診療所（札幌分院）<http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

